

ラボ環境のための Cisco Live データ配備

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[説明](#)

[SPRAWLER 配置タイプ:](#)

[PROGGER 配置タイプ:](#)

概要

この資料はラボ環境で Cisco Live データのための統一された連絡先センター エンタープライズ (UCCE) ソフトウェアのサポートされた配備を記述したものです

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- 統一された連絡先センター エンタープライズ (UCCE) ソリューション
- Cisco ライブ データ機能

使用するコンポーネント

この資料に記載されている情報は Cisco Live データ バージョン 11.0(2)に基づいています。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

説明

本番の新しい変更を設定する前に、顧客/パートナーは最初めにテストしますラボの機能をごちです。 UCCE 11.X コードで新しい Cisco Live データはこのカテゴリで下り、 UCCE ソリューションおよびバージョンのラボ環境特定の配備でそれを正常に設定することは必要です。これはこの機能によってテストされ、サポートされるラボおよびものに対する異なる配置タイプを示します。

SPRAWLER 配置タイプ:

設定システム 管理およびデータ サーバのこの型では同じサーバーで実行呼び出しルータ、ロガーおよびシステム Peripheral Gateway (PG) アプリケーションにロードされます。 この設計はライブ データの機能のためにテストされませんし、サポートされません。

注: SPRAWLER サポートおよびテストは UCCE 10.x バージョンから前に非難されました。

PROGGER 配置タイプ:

別のバーチャル ホストの設定管理およびデータ サーバ実行のこの型では 1 サーバで動作するように呼び出しルータ、ロガーおよびシステム PG アプリケーションがします。 この環境のライブ データはこれらの条件が満たされる限りはたります

- UCCE はバージョン 11.0(2) または それ 以上にあります

注: UCCE バージョン 11.0(1)は 450 のエージェント Progger 配置のライブ データをサポートしません。

- CCE 450 エージェント Progger 統一された配置タイプは選択されます
- ライブ データ プライマリおよびセカンダリ (オプションの) サーバはそこにそれぞれ仮想マシンに常駐します
- Cisco Unified 知性センター (CUIC) プライマリおよびセカンダリ (オプションの) サーバはそこにそれぞれ仮想マシンに常駐します